

拉致の日本人解放

イエメンで大使館確認

【サヌア＝吉武祐】イエメンの首都サヌア近郊で地元部族民らに拉致された日本人男性技師が23日夜（日本時間24日未明）、解放された。在イエメン日本大使館が確認した。イエメン政府当局が、仲介者を通して犯行グループとの交渉にあたり、15日の拉致以来、8日ぶりの解放にこぎつけた。

被害にあった技師は、日本政府の対イエメン経済協力プロジェクトを受注した毛利建築設計事務所（東京都中央区）から派遣された真下武男さん（63）＝同板橋区。

現地の敏蔭正一・日本大使が、解放直後の真下さんと携帯電話で話をした。元気な様子だったという。

真下さんは、サヌア北東約60キロのアルハブで国際協力機構（JICA）が手がける学校建設を監督。15日午後、イエメン人男性運転手とともに車で付近を通りかかったところ、銃で武装して待ち伏せしていた地元部族民らに連れ去

られ、拘束された。

犯行グループは朝日新聞の取材に対し「外国人がよく通る道であることは知っ

ていた。日本人だとは知らなかったが、外国人の人質なら政府との交渉に使えると思っていた」（アルハナク部族長）と明言。裁判なしで4年にわたり収監されている部族仲間の釈放を求めるため、イエメン政府当局との取引材料として外国人を狙った計画的犯行だったことを認めた。

イエメン政府当局と犯行グループとの解放交渉は17日、真下さんの解放後、仲間を早期釈放するとの条件で合意がいったん成立した。だが、仲間の釈放を真下さんの解放と同時に実施するよう改めて要求。交渉が振り出しに戻り、拘束が続いていた。

